

令和元年度「地方創生推進交付金等活用事業」評価結果

(令和2年9月)

○ 地方創生推進交付金等について

地方創生推進交付金等は、地方版総合戦略に位置づけられた、地方公共団体の自主的・主体的な取り組みで、先導的なものを支援する国の制度です。(補助率：事業費の1/2)

地方創生推進交付金等を活用する事業にあっては、ふさわしい具体的な重要業績評価指標(KPI)を設定し、PDCAサイクルによる成果を重視した事業を展開するとともに、事業年度毎に、外部有識者等による効果検証を行い、その結果について公表し、かつ、国へ報告することとされています。

現在、地方創生推進交付金 事業、地方創生拠点整備交付金 事業、合計 事業について、国の認定を受け交付金対象事業を実施しています。

地域再生計画の名称	事業概要	取組内容	KPI (令和元年度)		指標の達成度 (自己評価)	改革改善の方向性 及び課題・解決策
			目標値	実績等		
【交付金名：地方創生推進交付金】						
ツール・ド・とちぎを核とした地方創生推進計画 (H29～R1年度対象)	全国初の取組となる県内全市町を舞台とした国際自転車競技連合公認レース「ツール・ド・とちぎ」の継続的な開催を通じて、県、県内全市町、民間事業者、金融機関等が一体となって「自転車によるまちづくり」を進め、レースコースの地域資源化を図ることにより、産業やスポーツの振興、通年での観光誘客の促進、中山間地域の振興、若者の郷土愛の醸成と定住促進、農林業の振興等の施策を波及的に進めていく。	「ツール・ド・とちぎ」の開催にあたり、県内の観光名所等をレースコースに盛り込み、さらには発着地点等において地元のまちづくり団体等によるおもてなしブースを設置するなど、国内外から訪れる来場者により本県の魅力を満喫してもらえる仕組みを構築する。 また、サイクリストを中心とした通年での観光誘客並びに交流人口の拡大、農産物の6次産業化による農林業の振興、大会へのボランティア参加を通じた若者の郷土愛の醸成並びに定住の促進等につなげる。	公営レンタサイクル利用者数		A	<ul style="list-style-type: none"> ・県内の公営レンタサイクル利用者数は、目標を上回る実績となったが、本市において実施している真岡駅、久保記念観光文化交流館のレンタサイクル利用者数は、年間223台で推移している。 ・第4回大会は、新型コロナウイルス感染拡大防止の為、中止となった。それに伴い、公式HP閲覧回数や外国人宿泊者数は目標を下回る実績となった。 ・観光消費額については、日帰り客の消費額単価の伸び等により、観光消費額は概ね順調に推移している。
			60,538人	69,429人		
			ツール・ド・とちぎ公式HP閲覧回数			
			31.33万回	26.08万回		
			外国人宿泊者数			
			274千人	247千人		
			観光消費額			
6,530億円	7,054億円					
「全国いちごサミット」を核とした儲かる農業推進プロジェクト (H30～R2年度対象)	国内初の取組となる全国のいちご主要産地が一堂に会する「全国いちごサミット in 真岡」を開催し、これを契機として、本市をはじめ栃木県や県内全市町が連携した「いちご王国」づくりを更に深め、地域ブランド力の強化、高付加価値や販売単価向上に向けた6次産業化、新たなビジネスモデルの構築、国内外の新たな販路拡大に向けた農家所得向上の儲かる農業の仕組みづくりにつなげ、地域経済の活性化を図ることで、新たなしごと創出、若い世代の移住・定住の促進、人口流出の抑制につなげていく。	「全国いちごサミット」においては、新たなビジネスモデル構築、ビジネスマッチング、海外輸出に向けた販路拡大、農家所得向上等のためのビジネスサミットと、消費拡大やブランド力向上等のための消費者向けイベントサミットを開催する。 また、サミット開催機運を高めていくため、関係機関や地域と行政が一体となった「プレイベント」等いちごに関するPRイベントを広く、かつ継続的に実施し、主要産地との交流を進め、サミット開催の裾野を広げる活動を展開する。	いちご販売額		B	<ul style="list-style-type: none"> ・2020年3月14日、15日に開催予定の「全国いちごサミット in もおか2020」は、新型コロナウイルスの感染拡大を受け、来場者、関係各位の健康・安全面への影響を第一に考え、延期となった。 ・「シティドレッシング」 いちご農家や会場周辺や中心市街地へのぼり旗の掲出、街路灯などにリボンの装飾、観光PR看板への告知、街路旗の掲出、庁舎壁面のラッピングと巨大いちごの設置、歩道橋4箇所へ横断幕を掲出 ・首都圏に向けたPR事業 東京、上野、大宮駅内で、真岡のいちごを使ったスイーツの販売を展開。東京駅においてキックオフセレモニー、ヤフー本社、有楽町駅前広場、横浜、福岡県などの関連イベントを実施 ・「儲かる農業の仕組みづくり」を推進するため、新規就農者支援事業及びいちご生産施設整備支援事業等により農業経営の安定化と所得向上を図った。
			8,529百万円	7,857百万円		
			認定新規就農者数			
			7人	2人		
			主要野菜（にら、トマト（ハウス）、なす（ハウス））販売額			
			14.8億円	12.6億円		
			観光いちご園入場者数			
38千人	26千人					

地域再生計画の名称	事業概要	取組内容	KPI (令和元年度)		指標の達成度 (自己評価)	改革改善の方向性 及び課題・解決策	
			目標値	実績等			
【交付金名：地方創生拠点整備交付金】							
SLの走るまち拠点施設 SLキューロク館整備事業 (H29年度対象)	SLキューロク館敷地内において、 静態展示している人気のD51型SLを 既存の9600型SLと並走させるため の軌道を敷設することにより、「SL の走るまち」真岡の価値を高め、ま ちなか誘客の拠点としての機能を強化す る。 また、地方創生推進交付金で中心市 街地に整備した「チャレンジショッ プ」や「まちかど美術館」と連携する とともに、自転車利用環境の整備等に より周遊性を向上させることで、中心 市街地への滞在時間を延ばし、まちな かの消費拡大につなげ、まちなかの賑 わいを創出する。	<ul style="list-style-type: none"> ・軌道整備及び舗装工事 D51型SLを動態保存するための 軌道整備と舗装工事を実施した。 ・D51型SL動態整備 D51型SLが圧縮空気で自走でき るよう整備した。 	観光拠点施設（観光物産館、S Lキューロク館）売上高		A	<ul style="list-style-type: none"> ・D51形SLを動態整備し、本市の3大 観光資源の一つであるSLを有効活用 し、イベントを開催した。 ・観光拠点施設の生産性（売上高）も SLキューロク館の入館者数とともに向 上している状況である。 	事業完了 今後も、観光拠点との連携を図 りながら、誘客の強化と地域経済 の活性化等につなげていく。
			18,800 千円	20,450 千円			
			SLキューロク館入館 者数				
			12.90 万人	16.90 万人			
			卸売・小売業の販売額				
1,029 億円	1,198 億円						
地場産業の生産性向上に資す る真岡木綿会館及び観光物産 館再整備事業 (H30年度対象)	真岡駅から中心市街地の商店街への 徒歩圏内の動線上に位置し、伝統産業 の展示機能等を有する「真岡木綿会 館」及び特産品等を販売する「観光物 産館」に滞在・滞留できるオープンス ペースを増築する。 更に、観光客等の滞在時間の延伸 と、民間美術館、SLキューロク館や中 心商店街の回遊性を促進する商店街イ ベント等との連携を図り、観光消費額 の増加を図ることに加え、商工会議 所、商工会や中小事業者と特産品等 を生かした新商品の開発や販売を進めな がら、官民協働で中心市街地の商店街 全体の稼働率及び客単価等を向上さ せ、地場の中小事業者等や観光業の所 得向上につなげる。	<ul style="list-style-type: none"> ・真岡木綿会館再整備工事 既存の真岡木綿会館に、木綿製品 の販売スペース（ショップ）を増築 した。 また、ショップに併設したウッド テラスを増築し、「もめん茶屋」や 木綿会館の滞留スペースを整備し た。 ・観光物産館再整備工事 既存の観光物産館に、ウッドデッ キ（カフェスペース）を増築した。 また、若い世代が参集しやすいカ フェや景観整備を図り、中心市街地 の賑わいを創出する。 	真岡木綿会館 売上額		A	<ul style="list-style-type: none"> ・真岡木綿会館再整備工事 既存の真岡木綿会館に、ショップを 増築し、これまでの見学・機織り体験 に、新たに販売機能を加えた施設にな り、真岡木綿に親しみやすい環境や ウッドテラスを増築し、来館者や観光 客が集い憩える空間を提供できる施設 になった。これにより、中心市街地へ 賑わいの創出に努め活性化を図ること ができた。 また、キューロク館や中心商店街に 回遊性を持たせるイベント等を展開す ることができた。 	事業完了 完成した両施設を有効活用し、 交流人口の増加に努めていく、ま た、DCを契機とし、磨き上げた 観光資源を積極的にPRすること で誘客を図りるとともに本市の知 名度向上に努めていく。さらに、 中心市街地と観光施設等を結ぶ回 遊ルートを作成すること、また、 客一人当たりの観光消費額の増加 を目指す。
			11,433 千円	12,945 千円			
			観光物産館 売上額				
			12,680 千円	11,850 千円			
			真岡木綿会館及び観光物産館入 館者数				
73,799 人	77,888 人						

<p>まちの賑わい創出に資する観光起点再整備事業</p> <p>(R1年度対象)</p>	<p>更なるまちの賑わいの創出に向け、回遊による観光まちづくりの推進強化として、観光起点である真岡駅舎3階の情報センターを利活用(改修)し、SL鉄道駅という強みを活かしたテーマ性と、いちご生産量日本一の特徴を活かした(仮称)いちごSLワールドを整備する。この施設整備により、真岡鐵道の利用促進と、観光起点である真岡駅における滞在時間の延伸、それに伴う観光消費額の増加、また、中心市街地への回遊者増加による商店街の観光消費額の増加と所得の拡大を図るとともに、所得増加等による新商品開発や新たなしごとの創出、雇用の増加等につなげていく仕組みを構築する。</p>	<p>・観光拠点再整備工事 旧情報センターを、SLやいちごを模した子ども向け遊具エリア、飲食エリア、赤ちゃんの駅に改修した。</p>	SLキューロク館 売上額		<p>A</p> <p>旧情報センターを真岡駅周辺の活性化、親子のふれあいの創出、子育て環境の充実を目的に真岡駅子ども広場を整備し、真岡市初の屋内遊戯場では、真岡駅子ども広場のシンボルとなるドイツのベカ社で制作されたベカSL真岡スペシャルというSLの遊具や、壁面デザインには真岡市を代表するいちごなどを表現しています。4階は年齢に関係なく、どなたでもご利用いただける場所となっており、南側展望デッキでは、真岡の街や到着したSLを上から見たり、飲食ができるスペースとなっております。リニューアルオープン後の1~2月の土日については、市内外から一日約300人の来場者があった。</p>	<p>事業完了 真岡駅子ども広場に来場した方へ、中心市街地や周辺施設への案内の強化を図りたい。</p>
			8,075 千円	8,599 千円		
			真岡鐵道乗降者数			
			948,528 人	903,495 人		
			観光物産館 売上額			
12,730 千円	11,850 千円					